

# Newsletter

第8号 2025年6月発行

〒650-0022 神戸市中央区元町通 6-7-9 秋毎ビル3階

TEL:078-380-3400 FAX:078-367-3337

hyogo@communityfund.jp

https://hyogo.communityfund.jp/

## この活動が面白くないわけがない

理事 岡村こず恵

(甲南大学全学共通教育センター)

当財団は、2024年度にNPO関係者を対象に「市民参加のデザイン事業」を実施した。NPOの人材育成や後継者不足について問題意識を同じくする兵庫県内外の9つの団体とともに、NPOや地域活動において「市民参加」をさらに広げることをめざして、フォーラムや連続ゼミでプログラムを構成した。計4回の連続ゼミでは、参加団体は「参加をデザインする」ことを学んだ後、自身の活動の棚卸をして、自団体の参加のプログラムを作る。終了後のアンケートでは、「ソフト面、ハード面とすぐにやっていけそうなこと参考になることがたくさんあった」、「ボランティアマネジメントの必要性を実感した」など、肯定的なコメントを多く頂戴した。なかには、生活困窮者を支援する団体から「今は『この人なら』と一本釣りしているが、広く募集したあとに研修することで大丈夫なのか不安がある」と率直なコメントも寄せられた。感想からは、差別や偏見などから当事者を守ろうとする使命感や、見知らぬ人が活動に参加する不安などが読み取れた。

こうした不安には、様々な対策が考えられる。講座を開催して、人柄が把握できた参加者の中から誘うこともできるし、従来どおり「一本釣り」も有効だろう。その時に、ぜひ意識してほしいことがある。それは、自分たちの活動の魅力や意義深さを、参加者が知れたり味わえたりできるように参加をデザインすることである。

「活動の最も楽しいところを体験してもらっている。この活動が面白くないわけがない」。これは、多くのボランティアとともに活動する、あるNPOの代表の言葉である。自身の活動の楽しさもつらさも熟知している皆さんだからこそ、その「面白さ」を多くの人に伝えてほしいと切に願っている。

### 《目次》

■ 巻頭言	1
■ 2025年助成事業・採択団体決定	
有園博子基金	2
真如苑・ひょうご多文化共生基金	4
ひょうご・みんなで支え合い基金	5
■ 市民活動大交流会を開催！	10
■ 共感寄付をリニューアルしました！	12
■ 助成団体への訪問取材	
神戸レインボーフェスタ実行委員会	14
(特活)こどもサポートステーション・たねとしずく	15
(特活)多文化センターまんまるあかし	17
■ ひょうごコミュニティ財団の動き	19
■ 編集後記	20

久しぶりとなりますが、ひょうごコミュニティ財団 Newsletter 第8号をお届け致します！

## ■2025年度助成事業・採択団体決定

2025年度助成事業として、「第7期 有園博子基金」「第9期 真如苑・ひょうご多文化共生基金」「第3期 ひょうご・みんなで支え合い基金」の募集・選考を、今回も「合同募集」の形で行いました。いずれの基金も毎年少しずつプログラムの修正・改善を重ねていますが、大きなところでは「ひょうご・みんなで支え合い基金」に昨年度「若者活動応援分野」を新設したことに続き、2025年度は「組織応援コース」を新設しました。これに伴い、従来は全体で1つだった選考委員会も3分野ごとに設置し、更に拡充した選考体制となりました。2025年度助成は、2024年11月1日から12月19日までを募集期間とし、11月14日を皮切りに7回の募集説明会を行うとともに、申請書の書き方のアドバイスなどをおこなう個別相談をのべ44団体に対して実施しました。各基金には、以下のように多くの応募を頂きました。

【応募状況】		応募件数	応募総額	倍率
① 有園博子基金	活動応援コース	2件	360,000円	1.6倍
	組織基盤強化コース	8件	6,037,000円	
② 真如苑・ひょうご多文化共生基金		12件	3,600,000円	2.81倍
③ ひょうご・みんなで支え合い基金	若者活動応援分野	10件	1,881,000円	2.35倍
	子ども支援分野	36件	12,799,000円	5.12倍
	一般分野	38件	14,004,000円	5.84倍
	組織応援コース	13件	3,471,000円	4.34倍

### ① 有園博子基金

有園博子基金は、2017年に逝去された故有園博子さんのご遺志を受けて創設された基金です。有園博子さんの遺言に従い、兵庫県内において、1)DV 被害者、2)虐待された子ども、3)性暴力の被害者、4)JR福知山線脱線事故のご遺族、の4分野での活動・研究へのご支援を行ってきました。前回2024年度助成より、支援の網の目からこぼれる「隙間」を常に重視してこられた有園さんのご遺志に鑑み、また社会状況の変化を踏まえて対象分野を拡大し、上記4分野に加えて、「5)困難な状況にある女性への支援活動」も対象とすることとしています。これにより、被害当事者や困難な状況にある女性を支えるセーフティネットがより厚くなり、人が人として生きやすい社会をつくることに繋がればと願っております。



故・有園博子さん

#### 《2025年度 応募・採択団体数》

- |                       |                        |        |
|-----------------------|------------------------|--------|
| 1)活動応援コース(上限 20万円)    | 応募 2 件(総額 360,000 円)   | 採択 1 件 |
| 2)組織基盤強化コース(上限 100万円) | 応募 8 件(総額 6,037,000 円) | 採択 4 件 |

【活動応援コース】			
団体名	事業名	所在地	採択額
浜野 千春	表現活動を通じたDV被害後女性の回復支援	神戸市中央区	160,000
【組織基盤強化コース】			
(特活) こどもサポートステーション・たねとしづく	虐待の予防の視点を地域に広げる・支援者を増やす	西宮市	1,000,000
面会交流支援センターピロティ	子どもの利益となる面会交流の事業	神戸市中央区	248,000
(特活) 女性と子ども支援センターウィメンズネット・こうべ	中長期視点に基づく基盤構築のための組織基盤強化事業	神戸市中央区	1,000,000
(一社)TICC	当事者と支援者をつなぐ地域に根差したトラウマインフォームドケア/コミュニティ事業	尼崎市	1,000,000
合 計			3,408,000

◆選考委員(敬称略・肩書きは選考時、○は委員長)

- 岩井圭司 大阪人間科学大学人間科学部  
医療福祉学科 特任教授
- 石田賀奈子 立命館大学産業社会学部 教授
- 竹端寛 兵庫県立大学環境人間学部 教授
- 西部智子 法律事務所ユノ、弁護士
- 三井ハルコ (特活)市民事務局かわにし 理事長



キックオフ・ミーティング(2024年6月2日)

◆選考委員長 選評 岩井圭司委員長

有園博子さん(兵庫教育大学教授、臨床心理士。2017年逝去)のご遺志とご遺産を受けて設立された本基金による助成も、早7年目となった。数え歳7つである。今回も、応募して下さった団体、個人、そしてひょうごコミュニティ財団の運営スタッフの熱意とご尽力に感謝したい。

この間、応募団体、その中でもとくにこれまでに複数年度にわたって助成を受けられた団体において、アクティビティの向上がはっきりとみられたのは、わたしたち企画委員・選考委員の最も誇りとするところである。(同時に、自分自身の向上がそれに追いついていないように感じられることには忸怩たるものがある。)

さて、世にある多くの助成金は、助成対象を特定(限定)している。本基金の助成も「地域限定」かつ「テーマ限定」となっている。ここでは「地域限定」について述べておきたい。有園基金では、助成対象を「兵庫県内」における活動に限定している。やたらグローバル化が喧伝される今日にあって本基金は、自らを日本国内の、それも全国区ならぬ「兵庫地方区」的

な、敢えてローカルな存在と規定しているのである。このことに、どうかご留意いただきたい。これはもちろん有園博子先生のご遺志に基づくものである。有園先生のお考えを人口に膾炙した箴言で言うならば、「一隅を照らす」と「隗より始めよ」を併せたようなものではなかったか、と筆者は考えている。

その観点からすると、今回助成が決まった団体・個人はいずれも、これまで兵庫県の各地で、さまざまな意味で“地元”に根ざして実践を積み重ねてきた人たちである。まさに、本基金の趣旨に添った助成対象を得られたと言えよう。

そのうえで欲を言うならば、今回助成対象となった方々には、実際の活動にあたってそれぞれの地域の特性を活かした取り組みができたり、あるいは逆にそういった地域特性に関連した困難さを感じた場合には、そのことを今後ぜひ言語化していただきたいのである。そしてそれに依拠して、今後の活動を企画設計し、来年度以降本基金に応募したり、他の助成に応募したりしていただきたい。今回の助成申請書を見ても、DV、虐待、性暴力、さらには事故災害等の被害

者支援では、もっぱら被害内容や被害者属性に基づいた支援が計画され実行されており、被害者が暮らす地域の特性に対する顧慮はまだまだ少ないように思われる。もちろん、日本全国さらには世界中で通用するようなユニバーサルな被害者支援を追求することは

十分に意義のあることなのだが、今後はより地域特性に根ざした被害者支援の方法論の構築が求められているように思われる。このことは、“ローカルな助成”を行っている本基金の使命であろう。

## ② 真如苑・ひょうご多文化共生基金

真如苑・ひょうご多文化共生基金は、2016年に「真如苑・ひょうご子ども応援基金」として創設し、2019年からは社会全体の認識や公的制度の面で遅れている「多文化共生・外国人支援」を新たなテーマとして、その課題解決に向けて取り組む「真如苑・ひょうご多文化共生基金」として助成を行っています。

近年、外国人労働者の受け入れが大きく拡大していますが、社会全体として共生への取り組みはまだまだ不十分で、その中で地域の市民による助け合いの活動も一層重要性を増していくと思われまます。こういった認識のもと、兵庫県内で多文化共生・外国人の支援の活動を行う NPO 等に資金助成を行い、本趣旨にかなう活動の充実・拡大と、活動する団体の発展及び相互のネットワーク・連携強化を図っています。



選考委員会(2025年2月)

《2025年度 応募・採択数》 応募 12 件(総額 3,600,000 円) 採択 8 件 (申請上限 30万円)  
 (内訳) 神戸阪神地域 応募 8 件(総額 2,400,000 円) 採択 5 件  
 神戸阪神以外の地域 応募 4 件(総額 1,200,000 円) 採択 3 件

地域	団体名	事業名	所在地	採択額
神戸 阪神	マサヤンタハナン Masayang Tahanan	フィリピン移住者の暮らしを支える相談窓口事業	神戸市中央区	300,000
	HANS Tree	日本の子育て制度「わからない？」から「わかった、安心！」になる寄り添いサポート	神戸市北区	200,000
	(特活) ガルーダ・ジャパン コミュニティ	在留外国人の生活環境改善推進事業	神戸市灘区	150,000
	(特活) 日本語とエクステ エンジの会	移民難民・教育弱者の方への日本語学習およびキャリア支援 事業	神戸市東灘区	100,000
	Arts For All	HAPPY AFRICAN FESTIVAL	神戸市長田区	80,000
神戸 阪神 外	にこにこ日本語教室	にこにこ日本語教室 地域との交流活動	加古川市	200,000
	(特活)りとりめいと	外国籍の親子支援	養父市	200,000
	(一社)さんサンにほんご	未来へつなぐ日本語教室&学習サポートプログラム	たつの市	50,000
計				1,280,000

### ◆選考委員(敬称略・肩書きは選考時、○は委員長)

○武田丈 関西学院大学人間福祉学部 教授 李裕美 (特活)多言語センターFACIL 理事長  
 小澤昌甲 (社福)神戸 YMCA 福祉会 常務理事 原島照司 真如苑社会交流部  
 横川太 (公財)兵庫県国際交流協会 専務理事

## 選考委員長 選評 武田丈委員長

真如苑・ひょうご多文化共生・外国人支援基金は、宗教法人真如苑が、2016年より「ひょうごコミュニティ財団」と協働して行っている助成事業である。最初の3年間は子ども貧困や孤立などの問題に取り組む団体への助成であったが、2019年からはこれまでの取り組みを進化させつつ、テーマを多文化共生や外国人支援の取り組み、とりわけ貧困や暴力、差別に苦しむ人々への支援に資する取り組みを優先的に助成することを目的としている。兵庫県内で活動する団体を対象としているが、2025年度は過去2年度同様に続きこうした活動に対する支援があまり十分ではない神戸・阪神間以外(播磨・丹波・但馬・淡路地域)の活動を助成総額の半分程度採択することとして公募を行った。

応募団体の総数は12件で、事務局による予備選考を通過した10件が本選考に進んだ。本選考に進んだ10件のうち、神戸・阪神以外の地域の団体が3件、神戸・阪神地域の団体が7件であった。これら10の団体が、2025年2月27日に開催された選考委員会にお

ける質疑応答に臨んだ。選考委員会では5名の審査委員からそれぞれの団体に対して約12分間の質疑が行われ、いずれの団体も非常に重要で熱心な活動を展開されていること、苦勞しながらもさまざまな工夫や努力を行いながら組織やプログラムを運営されていること、地域のニーズに対応したさまざまな活動を行っていることが確認できたが、慎重な審査の結果、8件(神戸・阪神以外の地域が3件、神戸・阪神地域が5件)が採択された。残念ながら採択に至らなかった団体は、計画性がやや不十分であったり、活動の継続性に不安があったりしたが、地域の外国ルーツの人たちにとって不可欠な活動を行っておられる。こうした活動が引き続き行われることを願うとともに、来年度に本助成に再度チャレンジされることを期待する。

末筆ながら、申請書の整理や適切な選考委員会の準備及び進行を担っていただいた事務局とともに、応募されたすべての多文化共生や外国人支援に取り組まれている団体に謝意と敬意を表する。

## ③ ひょうご・みんなで支え合い基金

ひょうご・みんなで支え合い基金は、これまでひょうごコミュニティ財団に寄せられた基金を合同で募集するもので、2023年度に「ひょうご市民活動応援基金」の名でスタートし、昨年度より現名称に改名し、今期3期目となりました。

この「支え合い基金」の名は、コロナ下において、困難な人を支える市民活動を支える、即ち「支える人を支える」ために多くのNPOや企業の呼びかけで実現した、緊急支援基金に使われた名称でした。その精神をも受け継ぐとの趣旨でその名を引き継がせて頂いたものです。

この基金の下に、いずれも個人・法人(企業)の浄財により設立された冠基金があり、それぞれの寄付者の意向に基づいた分野に助成金を充当しています。年々進化を遂げており、2024年度は、若者が主体となって行う活動を支援する為の若者活動応援分野が新設され、今期2025年度は、組織基盤強化のための助成である「組織応援コース」も新設されました。そうした分野・コースの多岐化に対応すべく、選考委員会も3つの委員会が設置され、それぞれで選考を行いました。



選考委員会(組織応援コース;2025年2月)

分野	応募件数	基金名	内容
若者活動応援分野	10 件	野田子ども・若者応援基金	子ども支援・若者の活動支援
子ども支援分野	36 件	田中成治基金	子ども支援
		中村毅一郎・婦美乃基金	子ども支援
		ASAHI-MITSUHASHI 基金	医療・子ども支援
		岸鶴夫基金	高齢者支援
一般分野	38 件	中村毅一郎・婦美乃基金	分野限定なし
		實吉一夫基金	
		匿名基金	
組織応援コース	13 件	支え合い基金全体の枠組みから拠出	
計 97 件 総額 32,155,000 円			

## 『若者活動応援・子ども支援分野』

若者活動応援分野と子ども支援分野は、ひとつの選考委員会にて選考を行いました。子ども支援分野は例年通り高い倍率になりましたが、若者活動応援分野も2年目を迎え、前年に比べ多くの応募があり、高いニーズを伺わせました。

### ◆選考委員(敬称略・肩書きは選考時、○は委員長)

- 石田祐 関西学院大学人間福祉学部 教授
- 川中大輔 シチズンシップ共育企画 代表、  
龍谷大学社会学部 准教授
- 末永美紀子 (特活)こどもコミュニティケア代表理事
- 長沼 隆之 神戸新聞社 論説副委員長

### 《2025 年度 応募・採択数》

若者活動応援分野 応募 10 件(総額 1,881,000 円) 採択 5 件  
 子ども支援分野 応募 36 件(総額 12,799,000 円) 採択 A コース 3 件、B コース 4 件  
 (A コース上限20万円、B コース上限 50万円)

分野	団体名	事業名	所在地	採択額
若者活動応援	学生 422	若者アクション活性化事業	神戸市長田区	200,000
	プライドプロジェクト	LGBTQ ユースのための居場所事業	西宮市	200,000
	Socie-Tea	日本茶を用いた在留外国人の自立的なコミュニティ作り事業	神戸市中央区	131,000
	(特活)夢ノ森伴走者 CUE	ユース世代を対象とした地域密着型チームビルディングによる人材育成プログラム事業	姫路市	200,000
	KGU コンポスト	土から始まる循環革命～『コミュニティコンポスト』事業～	西宮市	69,000
	若者活動応援 合計			
子ども支援 A	(特活)みらぼて	学校が苦手な子の居場所づくりと保護者のサポート	小野市	200,000
	Teenagers' Free! Theater	ちょっと学校に行きにくい 10 代の為の演劇サークル 第 20 回演劇公演	宝塚市	200,000
	ととのうラボ Ashiya	0 歳からのととのうラボ	芦屋市	150,000
	小計			
子ども支援 B	Deaf LGBTQ Center	聴覚障害児向け LGBTQ×サポートブック制作	神戸市垂水区	500,000
	(特活)ピアサポートひまわりの家	子どもの居場所みーな 地域につながる駄菓子屋みーな	宍粟市	500,000
	(特活)ふえっこ自然村	学校以外の多様な学びの選択肢としての里山共育コミュニティモデル事業	丹波市	500,000
	(公財)神戸 YWCA	夏休み勉強に役立つ日本語クラス	神戸市中央区	450,000
	小計			
子ども支援合計				2,500,000

選考委員長 選評 石田祐委員長

今年度は兵庫県全域から若者活動応援分野に10件、子ども分野(A・B コース)に計36団体にのぼる応募があり、結論を出すまでに多くに議論がありました。書類による1次選考、書類および面談による2次選考を経て、若者活動応援分野において5団体を採択し、子ども分野においては7団体を採択することができました。今年度の特徴のひとつは、新規の応募団体が多くあったことです。助成金を活用して市民活動を行いたいと考える団体が多く発掘されたとも言えます。各地域の市民活動が活発になることが期待されます。

若者活動支援分野は、若者が活動の主体となり、地域の課題解決に資する活動に挑戦するものです。応募は若手社会人だけでなく、大学生さらには高校生からも応募がありました。それぞれ自分の身近な地域の課題を取り上げ、自分たちにできる範囲の活動を定め、書類に思いを書き込んでくれているように読みました。それでも、審査の中では、実現性や新規性を期待したい声もあり、もっと具体の記載があってもよ

いのではないかという意見もありました。それは、言い換えると、一定程度の書類ができていてさらなる期待を寄せているということでもありました。

子ども分野においては、直接子ども達に提供する活動から子どもを育てる家族をケアする活動まで多様な角度からの申請がありました。本分野では、書類選考による20万円を助成する A コースと、書類および面接で選考する50万円助成の B コースに対し、寄付を原資とする予算を最大限活用し、団体を決定いたしました。どの活動も重要であることは審査員一同承知の上で、特に市民活動性の強いものであったり、どんな課題に取り組むのか、そしてどのように取り組むのかについて独創性があったり、しっかりと取り組めそうな事業を評価しました。面接で初めてわかることもありましたが、限られた紙面において十分に活動を伝える工夫を行う余地がまだありますので、市民活動を行うみなさまにおいても検討をいただけると幸いです。

【一般分野】

「若者活動応援」「子ども支援」以外のすべてを対象とするのが一般分野です。高い倍率に加え、多種多様な活動を相対的に選考する必要があり、大いに選考委員を悩ませました。

◆選考委員(敬称略・肩書きは選考時、○は委員長)

- 石田祐 関西学院大学人間福祉学部 教授
- 相川康子 (特活)NPO 政策研究所 専務理事
- 坂西卓郎 (公財)PHD 協会 常務理事・事務局長
- 馬場正一 (社福)兵庫県社会福祉協議会 事務局長

《2025 年度 応募・採択数》 応募 38 件(総額 14,004,000 円) 採択 A コース 6 件、B コース 3 件 (A コース上限20万円、B コース上限 50万円)

分野	団体名	事業名	所在地	採択額
一般分野 A	(特活)ゲートキーパー支援センター	地域の相談室事業	伊丹市	130,000
	(特活)MixRainbow	講演会 今更聞けない LGBTQ+入門	尼崎市	180,000
	(特活)あんだんて KOBE	知的障がい児者と取り組む参加型音楽フェスティバル	神戸市灘区	160,000
	播州ストリートダンス協会	ダンスで繋がる希望のネットワーク 2025~多様性と包摂の社会を目指して~	姫路市	150,000
	たんば社会教育士コミュニティ	「たんば社会教育士コミュニティ」による社会教育士の認知度向上と交流・人材育成事業	丹波市	140,000
	(特活)しろう夢鉄道	鉄道のない町宍粟市を鉄道模型で地域活性	宍粟市	140,000
		小計		900,000

一般分野 B	神戸レインボーフェスタ実行委員会	神戸レインボーフェスタ 2025	神戸市中央区	500,000
	(特活)武庫川 ECO-LABO	フィッシュシェアリング活動	尼崎市	500,000
	コミュニティスペース そらにじひめじ	ひめじヒューマンライブラリー2025	姫路市	500,000
	小計			1,500,000

**選考委員長 選評 石田祐委員長**

今年度は一般分野(A・B コース)に計38件にのぼる応募があり、9団体を採択することができました。

一般分野の A コースは書類のみで選考を行います。それぞれの団体がなぜその活動が重要なのかにおいて、その根拠を示す情報をお示しいただいています。一生懸命に記述いただいている反面、社会的状況を説明することに傾斜し、団体の活動との結びつきを発見しにくくなる書類もありました。もちろん社会的背景から見出される取り組みの意義を説明いただく必要がありますが、最も重要となるのは、団体のみなさんの活動が何を目指しているのか、そのために何を行うのか、それが誰の何を改善したり解決したりするのかについて具体的に説明をいただくと、審査員としては評価しやすくなると考えています。

B コースは書類に加えて面談があることから、文章から読み取れない部分にまで踏み込むことができます。団体のみなさんの声を聞くと、全部に支援したく

なってしまうという気持ちも芽生えてくるのですが、それ以上に、書類審査時には評価がなされていなかった点に気付かされることもありました。また、50万円という資金を活動全体の中でどのようなことに用いるのかという点も重要な議論のポイントとなりました。施設整備に用いるのか、人件費や講師代に用いるのか、どこに用いることも自由な助成ですが、審査員としてはそれがいかに活動を有益なものにするのかという点で議論しています。



選考委員会(2025年3月)

**『組織応援コース』(新規)**

市民活動・NPO への助成の多くが活動・事業に対する助成ですが、活動ではなく、組織の成長を応援する「組織応援コース」を今期より新設しました。

忙しい毎日の中、組織内部のコミュニケーションや人材育成のような組織にとって大切なことを後回しにしたまま、活動に追われることも少なくありません。このコースは団体の足元を見つめ、足場を固めるための取組みに必要な費用を助成するものです。初の試みでしたが、予想以上のご応募を得て、ニーズが大きいことを改めて実感しました。

◆選考委員(敬称略・肩書きは選考時、○は委員長)

- 早瀬昇 (社福)大阪ボランティア協会 理事長
- 柏木輝恵 (特活)シミンズシーズ 事務局長
- 村上義弘 コミュニティ会計研究所 代表

《2025年度 応募・採択数》 応募 13 件(総額 3,471,000 円) 採択 4 件 (申請上限 30万円)

団体名	事業名	所在地	採択額
(特活)西脇ととて広場	「子どもの居場所」安心安全ガイドラインの作成と理解	西脇市	182,000
(特活)IPPO	地域における NPO 法人 IPPO の役割を軸にした組織基盤強化	尼崎市	168,000
(特活)育ちあいサポートブーケ	組織基盤強化事業	川西市	250,000
からとの未来を考える会	神戸市北区唐櫃地域におけるコミュニティプラットフォーム構築	神戸市北区	200,000
計			800,000

### 選考委員長 選評 早瀬昇委員長

本基金の「組織応援コース」は、いわゆる組織基盤助成です。この「組織基盤助成」は、事業による課題解決などの成果を求める「事業助成」と異なり、組織自体の基盤強化を進める活動に助成するものです。助成の成果が見えやすい事業助成と違い、主に組織内部の体制強化を目指すため、外から成果が見えにくくなります。そのため税金を原資とする自治体の補助金などはもちろん、民間助成財団でも、実施例はそう多くはありません。

しかし、今回、その組織基盤助成を実施することになりました。「事業助成」で資金を得た事業を遂行するため目の前の活動に追われるなか、活動の土台となる組織の体制がゆらいでしまうことも少なくありません。組織基盤助成は、この課題を克服する一助になると考えたからです。

選考の結果、報告のとおり、4 団体に総額80万円を助成することとなりました。助成を受けた団体に関しては、財団 HP の選評をご覧いただくとして、私からは今回、残念ながら選に漏れた団体について総括的にコメントします。

まず、この種の助成では常にあることですが、助成を得た団体と選に漏れた団体の差は、わずかな場合が大半です。助成総額が決まっている以上、相対評価とならざるを得ず、わずかな差で当落が決まります。

ですので、選に漏れた皆さんは、どうか落胆されすぎず、次の機会での再挑戦をお願いします。では、何が差となったのか？ 今回、助成できなかった団体の申請に対して審査員からは、経常費用が安すぎるなど提案された計画で目標が実現する説得力が弱い、事業計画や資金計画の記載が乏しい、組織応援というより事業助成に見える…などのコメントがありました。要は目標である組織基盤の改善に向けた具体的な道筋が見えにくかったことが差となったわけです。

助成も寄付も、信頼して資金を託すもの。託したいと思える計画を練り、助成金や寄付も得つつ、事業を進める団体が増えてほしいと思っています。



選考委員会(2025年2月)

## ■市民活動大交流会を開催！

2024年度の助成事業の一環として、2024年10月19日(土)にあすてっぴ KOBÉにて市民活動大交流会を開催しました。これは、従来、基金ごとに開催していた中間報告会を3基金の採択団体に共感寄付の参加団体を加えた団体が一同に会し、学び・報告・交流の3要素をふんだんに盛り込んだ大交流会として開催したものです。

当日は27団体・35名の助成先団体の皆さんに加え、各基金の選考委員や当財団役員も集い、総勢50名の会となりました。当日は、会場の空調が不調というアクシデントに加え、10月とは思えぬ猛暑となりましたが、それにも負けず会場は名実ともに活気にあふれた熱いひと時となりました。

### ◆開会の部

冒頭、当財団代表理事の西河紀男が挨拶(写真)を行い、その後、もう一人の代表理事の実吉威が当財団の助成プログラムについて説明しました。3基金の背景や現況を説明すると共に今後の助成プログラムの展望についても説明しました。最後に、本日が大きい学びの機会となり、素晴らしい交流の場になることを期待する旨、訴えました。



### ◆第一部 活動報告

第一部では、各基金を代表して3団体が活動報告を行いました。ひょうご・みんなで支え合い基金を代表して「神戸レインボーフェスタ実行委員会」が、有園博子基金からは「(特活)性暴力被害者支援センター・ひょうご」が、そして真如苑・ひょうご多文化共生基金からは「(特活)多文化センター・まんまるあかし」が活動報告を行いました。3団体共に助成を受けての活動の状況に加え、第二部のテーマも意識して、参加者・利

用者を如何に増やすか、更に運営側のサポートをしてくれる人をどう増やすか等苦心している状況も盛り込んだ報告をしていただきました。



### ◆第二部 トーク&セッション

第二部では、ゲスト・スピーカーとして、アクションポート横浜の代表理事 高城芳之さんをお招きし、「参加で作る市民活動の魅力！」と題してご登壇頂きました。高城さんは、ご自身、学生時代より「若者と地域を繋ぐ場づくり」をテーマに活動を始められ、アクションポート横浜では学生のボランティアマネージメントをはじめ多角的な活動をされています。

当日は、ご自身の横浜での活動や学生相手でのエピソードも交えながら、若者が市民参加に何を求めており、どの様に導いていくか等、非常に示唆に富んだお話を頂くとともに、簡単なワークも交えたセッションもあり、既に第三部の交流会が始まったかのようには場は温まり、参加者が受け身ではなく自然と学ぶ

場となりました。



### ◆閉会の部

場も冷めやらぬ中、最後に当財団の理事でもある(公財)PHD 協会の常務理事・坂西卓郎さんに閉会の挨拶をいただきました。

坂西さんは、ひょうご・みんなで支え合い基金の選考委員も務めており、様々な視点でこの交流会の意義を振り返っていただきました。

3時間半にわたる長丁場の大交流会でしたが、会場撤収の時まで、多くの方が残り語り合う等、まさに交流会らしい終始豊かな時間となったと思っております。

### ◆第三部 交流会



第三部の交流会では、前半をテーブル・トーク TIME とし、後半をフリー・トーク TIME としました。

テーブル・トーク TIME では、幾つか用意されたトーク・テーマの中からテーブル毎に全員の一斉

指差しでテーマを決め、話し合いました。幾つかのテーマを準備しましたが、「みんなに聞きたい！ 団体運営のなやみ」を選ぶテーブルが多く、お互いの活動や悩みを紹介し合い、期せずして互いの理解を深めることができました。その流れで、後半のフリー・トークでは、会場狭しと会場を回り多くの方と話す人、引き続きテーブル・トークに花を咲かせる人等、それぞれが思い思いの形で交流することができました。



# ■「共感寄付」リニューアル！

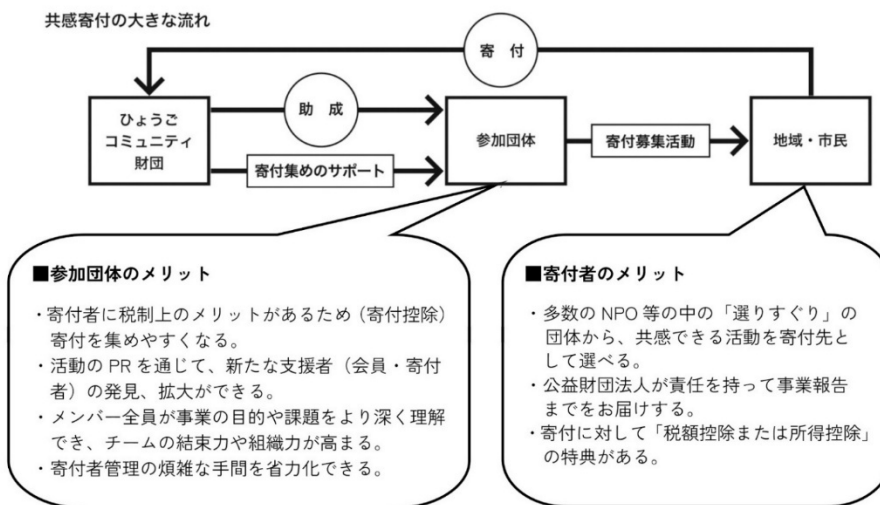


## ◆「共感寄付」とは？

「共感寄付」とは、社会からの寄付に支えられて活動したいとの思いを持った地域の NPO・市民活動団体と当財団が一緒になって市民からの寄付を募り、地域の課題に取り組む、「寄付募集と助成のしくみ」です。2012年に始めたこの仕組みはこれまで7000万円近くの寄付を集め、106事業(4月実績を含む)を支えて来ました。この度、その「共感寄付」は、サイトを全面改訂し、寄付者にも親しみやすいインターフェイスに一新すると共に、その仕組みも参加団体に利用し易い形を整え、リニューアル致しました。その結果、従来の参加団体である9団

体の継続は勿論、新規参加説明会には30団体に参加して頂き、その後、新規申込みも続々と届いていると聞いています。その辺りを担当者に聞きました。

共感寄付の大きな流れ



## ◆リニューアルの裏側を担当者に聞きました

### Q. 今回リニューアルを考えた原点は？

当初は、或いは今もリニューアルという意識はありません。本来あるべき姿を整えたいとの思いでした。「共感寄付」は、「誰かの役に立ちたい」という寄付者の思いを活動資金が必要な市民活動団体(NPO)に繋ぐいわば「資金の縁結び」だと思っています。最近では参加団体も増え、寄付も集まりつつあるのですが、

如何せん知名度がまだまだ低い。そうした思いで、現実を見つめてみると、まずウェブサイトが古く、デザインも使い勝手もよくない、また、共感寄付の運営面もまだまだ改善の余地があると感じました。

税制上の優遇だけでなく寄付者にも参加団体にもメリットがある共感寄付、これは当財団のビジョン・ミッションにも合致しており、三方好しのしくみですの

で、その本来の姿を整え、活用して頂けるものにした  
 と思いました。

**Q. リニューアルに際して苦心した点は？**

まず予算がありませんでした。また、当初はサイト刷新  
 といっても何をどれだけ変えればどんなメリットが  
 あるのか、暗中模索の状態、兎も角、多くの方のアド  
 バイスをお聞きし、少しずつ出口を探りました。お金を  
 かければ何とでもなるのでしょうか、コストとの闘  
 いで、NPO 向けのお仕事をやっておられるところに  
 非常に無理を言って機能とコストを細かくブレイクダ  
 ウンしてもらい、検討に検討を重ねました。

それに加え、団体のアピールや寄付の導線にも配慮  
 し、再考しました。多くの団体に参加してもらうことを  
 想定し、公平性についても留意しました。まだまだ改  
 善の余地は残っていますが、何とかスタートラインに  
 は立てたかと思っています。

**Q. 新規応募状況はどうですか？**

400団体ほどにご案内したところ、40団体から反  
 応を頂きました。非常に関心が高いことを実感しまし

た。現在、18件の個別相談を進めており、6月には今  
 期の新規参加団体を加え、リスタートする見通しです。  
 新規参加団体数は、選考委員会を経て確定するので、  
 何とも言えませんが、二桁には届くかと期待していま  
 す。(編注:6/1 より12団体が新規スタートしました)

**Q. 最後に「共感寄付」がどうなってほしいですか？**

冒頭「資金の縁結び」と申しましたが、それは素晴ら  
 しい活動をしながらも資金面で苦勞されている市民  
 活動をみんなで応援していくネットワーク作りです  
 から、それが広がっていくことは、健全な市民活動の発  
 展に繋がり、寄付文化の醸成に繋がると信じていま  
 す。そのためにもまず我々自身が、「共感寄付」の知名  
 度を上げるため、日夜努力していきます！



ご興味のある方はこのQRコード  
 或いはコチラの URL から↓

<https://hyogo.communityfund.jp/kyokan/>

(共感寄付担当:大田、大内)

**◆神戸新聞に掲載頂きました！**

「共感寄付」のことを4月4日付「神戸新聞」にて取り上げて頂き、多くの反響を頂いております。



**応援したいNPO、活動見て選択**

**広がる裾野**

「資金の縁結び」を掲げ、支  
 援を希望するNPOや団体を募  
 集、審査した上、ウェブサイ  
 トなどで活動内容を紹介してい  
 る。市民の中から共感した  
 活動を選んで寄付できる。  
 クラウドファンディングに似  
 ているが、公財団を通じた寄  
 付のため、寄付者は税控除が受  
 けられる。また寄付にかかる事  
 務は財団が行い、NPOは活動  
 に専念できるメリットもある。  
 これまでに63団体が参加。3  
 278件、6933万円66986  
 円の寄付が集まり、97事業に約  
 5270万円を助成した。一  
 般社団法人「テモラテック  
 スクールまっくらくすげ」(兵  
 庫市川町)は、子どもが主体  
 となって学びたいと、ルール  
 を定めていく学校を自民家で運  
 営。新たな活動スペースとして  
 倉庫を改修するための寄付を呼  
 びかけ中で、担当者共感寄付  
 を通じて「いろいろ学び」場があ  
 ることを知ってほしいと話す。  
 同じく在日外国人を支援する  
 特定非営利活動法人「NPO神  
 戸外国人救援ネットワーク」(神戸市  
 中央区)も「共感寄付」という形  
 だど市民の信頼を得られずい  
 しく、横のネットワークも広が  
 る。相談者の内容や言語が多  
 様化し、通訳者の費用などに充  
 てる資金確保が課題という。

**新規参加団体募る**

財団は4月〜来年3月の期間  
 で新たに寄付を募る団体を募集  
 (4月30日締め切り)。サイトも  
 リニューアルし、各団体の活動  
 ながひと目で分かる。実吉威  
 代表理事は「地域の活動を応援  
 したいが、どんな団体があるの  
 か知らないという市民は多い。  
 共感寄付という窓口をつなぐ」  
 と、助成を結び、NPO活動の  
 裾野を広げたいと話す。同財  
 団06-86-8800・06400

「共感寄付」への参加を呼びかけるひょうごコミュニティ財団のウェブサイト＝神戸市  
 中央区区民センター

神戸新聞

2025年(令和7年)  
 4月4日  
 金曜日

神戸新聞社  
 〒650-8571  
 神戸市中央区東川崎町1-5-7  
 www.kobe-np.co.jp

「共感寄付」は活動に専念できるメリットもある。これまでに63団体が参加。3278件、6933万円66986円の寄付が集まり、97事業に約5270万円を助成した。一般社団法人「テモラテックスクールまっくらくすげ」(兵庫川町)は、子どもが主体となって学びたいと、ルールを定めていく学校を自民家で運営。新たな活動スペースとして倉庫を改修するための寄付を呼びかけ中で、担当者共感寄付を通じて「いろいろ学び」場があることを知ってほしいと話す。同じく在日外国人を支援する特定非営利活動法人「NPO神戸外国人救援ネットワーク」(神戸市中央区)も「共感寄付」という形だど市民の信頼を得られずいしく、横のネットワークも広がる。相談者の内容や言語が多様化し、通訳者の費用などに充てる資金確保が課題という。

## ■助成先団体インタビュー

ひょうごコミュニティ財団では、助成プログラムを助成して終わりにしたくないとの思いから、交流会や報告会等を実施し、助成させて頂いた団体さんの活動にも注目させて頂いて居ります。その一環で、助成先を訪問させて頂き、お話を伺うことも行って居ります。その中から、今回は3団体への訪問、インタビューの様子をお伝えさせて頂きます。

### ◆神戸レインボーフェスタ実行委員会 [ひょうご・みんなで支え合い基金]

神戸レインボーフェスタ実行委員会の新井様と田辺様にお話を伺いました。

#### まずはお二人の自己紹介をお願いします

新井「私自身のセクシャリティはゲイです。もともとは教育関係の会社を経営しておりました。4年前に同性同士の結婚相談所で田辺と知り合いました。」

田辺「僕はもともと看護師として働いていて、大学病院の救命救急で働きその後訪問看護に進みました。」

——お二人は、2021年の10月に尼崎市で同性パートナーシップを結ばれました。いわゆる同性同士の夫夫(ふうふう)です。LGBTの当事者であるお二人が結婚相談所を設立することで、LGBTの皆様が利用しやすい相談所を作りたいと2021年3月に「ベストリアン」を立ち上げられました。

田辺さんの性自認についてお尋ねします。どのようなことがきっかけでご自身がゲイだと自覚されたのでしょうか？

田辺「僕にとって父と母が理想のパートナー像なんです。自身がゲイと自認したのが幼稚園の年長時、男性の教育実習生の着替えているところをたまたま見てしまい、その時はなぜかドキドキしてしまったんですね。たぶんそれが初恋でした。しかし、それと同時に僕はすごく大きな病気になってしまったと思ったんですね。僕は普通の恋愛ができない、お父さんお母さんのようになれない、大きな病気になってそれは両親を悲

しませると、長い間悩んでいました。僕には中学生の時に親友の女の子がいましたが、その子に初めて自分はある男性の先生が好きだと打ち明けたときに女の子が「全然普通やん」って言ってくれたんですね。親にも言えないけどその親友にだけは言えて、なおかつ否定されなかったことが僕の中で心の救いになり、その子がいたおかげで乗り越えられたのかなと思っています。」



新井さんと田辺さん

お二人が神戸レインボーフェスタの主催となられたきっかけは？

新井「はじめは、昨年自分たちが運営しているベストリアンの2周年を祝って、何かイベントをしたいと考えていたのです。しかし、候補地のKIITOの会場を見学したときに僕の中でピンときた、神戸ではフェスタが無い、これはチャンスだと思いました。既に3カ月前でバタバタでしたがなんとか開催しました。それでも600人ほどの方にお集まりいただきました」

——一度開催して、ある程度認知してもらえて社会的責任も出てきました。1回開催して終わりというわけにはいかず、昨年2回目の開催を考えたときやはり必要なのは資金でした。

**基金に応募されたきっかけをお話いただけますか？**

新井「もし2年目も開催するとなったら規模を広げないとダメだという話を終わった直後からしていました。ところが規模を広げるとなるとそれ相応にお金もかかる、場所代やその他経費を考えると優に100万円を超えてしまうのです。これはちょっとさすがに自分たちの持ち出しにも限界があると思い、どこかで助成金を取れないだろうかと考えました。」

——お二人は、助成金を獲得できるのは NPO 法人だけだと、半分諦めておられたようです。様々な条件を調べて、たどり着いたのがひょうごコミュニティ財団でした。

新井「ただ、コミュニティ財団が募集されておられる要項に、うちのようなフェスタが当てはまるかがわからなくてとりあえず、財団にすぐ連絡しました。すると、快く引き受けていただき、お話をさせていただいたんです。」

——お二人は、財団の職員が快く話を聞いてくれ、すごく良いことをされていますねと言って貰えたことが嬉しかった。申請が通るとかどうにか以前に、自分たちの活動を認めてもらい本当に嬉しかったと涙ながらに語ってくださいました。

この助成は寄付によるものです。支援者に向けて一言お願いします

新井「とにかくこの神戸レインボーフェスタ2024を開催できたことが、一番大きかったですね。2024年

は昨年を超えて 1032 名の方にお越しいただきました。やはりこのお金があったからこそ開催もできて一定程度周知もできた、と思います。何よりも LGBT の当事者の方で悩んでおられる方、特にカミングアウトせずに生きてこられた方が唯一神戸の1年に1回のその場所に来て本当に自分の思うままの姿で誰の目も気にすることなく楽しめる、そういう空間を作れたことは大きいです。このような基金があったおかげで、安心できる場所が作れたということとその他に LGBT の当事者以外の方にも一定程度ご来場いただいて LGBT のことを知ってもらえたという、これはものすごく大きいですね。

**今後、どのような未来を理想とされていますか？**

新井「LGBT というそんな言葉すら無くなって、当たり前のように子供たちの会話や大人たちの会話で【彼氏・彼女いるの?】とそういう聞き方ができる世の中に、それがもし同性のパートナーだったとしても、驚くことなく「わ! いいやんか」と言える世の中になる、そんな時代、世界にしていきたいと思うので、皆さんにも知っていただいて引き続きご支援いただけたら嬉しいです」

——以上は、昨年のインタビューですが、今年も神戸レインボーフェスタは更にパワーアップして神戸に帰ってきます。(5月31日・6月1日開催)

詳しくは、コチラ↓

<https://www.koberainbowfesta.org/>

**◆特定非営利活動法人こどもサポートステーション・たねとしく [有園博子基金]**

NPO法人こどもサポートステーション「たねとしく」の代表理事大和陽子さんのお話を伺いました。

——たねとしくさんは、すべての子供たちが家庭環境等に左右されずに、こどもらしい時間を過ごし、自分の将来を選ぶことができる社会を目指して活動されています。ライブラリー(写真)の運営、ひとり親世帯の家事支援、困窮家庭支援、学習支援などさまざま

な取り組みを行っておられる団体です。

**まず、活動の原点を教えてください**

2015年から別の団体を立ち上げ、子育て支援をやっていたのですが、紆余曲折を経て産前産後の家事支援に落ち着きました。しかし、両親がいても大変な産前産後なのにひとり親世帯だったらどうなんだろうということを思い始めて、3年間ひとり親支援

の補助金をいただきました。



そこで1年に25家族とか20家族をサポートさせて頂き、様々な課題が絡みまっていることを知り、今度困窮ひとり親家庭に特化した活動にしたいという思いでやりはじめたのが2年前です。ただ、スタートしたときから子供たちの居場所の構想はあり、2023年8月に「たねとしくライブラリー」を立ち上げたという経緯です。

#### たねとしくライブラリーについて教えてください

当初はあそこまで家庭的な雰囲気にするつもりはなかったんです。何故なら子供たちには年齢層による悩み・苦しみや経済的な問題だけではなく、体験格差がありそれぞれです。ですのどの子でも来れる場所と考え、あんまりクローズのお家っぽい雰囲気よりは、ちょっとオープンな場所にしたいなという思いがありました。そこで図書館だったら誰でも来れる、特別な場所・施設じゃないですよというところでライブラリーという名前に落ち着きました。週に3日開けています。

#### スタッフの育成について教えてください



育成というのは難しいですね。今来てくれているスタッフは良い子供たちですが、なにせ大学入って20歳前後

の子や社会人なりたてだったりするので、まだまだ自

分たちのことでも揺れ動く時期です。それでいて誰かの面倒を見るという立場の人を私たちは育成する、やはり社会人を育成するというのとはまたちょっと違うのかなと思います。

また自分たちの団体自体ができて2年、しかもまだまだしっかりした内部の取り決めが決まっていない、支援方法の答えがあるものではないという中で、支援者を育成していくということなので、すごく難しいです。

この仕事は、だれでもができる仕事でもないということ。それをどうすればだれでもできる仕事にできるかというのを考えていく、それを目指しています。研修もしてますが研修だけではなかなか理解できないことがあるので、私たちの目的としてヤングケアラー防止、虐待防止、DV 方の心のケアというような目的に沿った人に来てもらわないと、スタートがずれちゃうとなかなか難しいかな。やはりそのような社会課題を知ったうえで来てもらう、そういう方であるのは前提にあります。

#### 更に支援者支援も目指されているようですね

昨年度には(特活)ムラノミライさんと一緒に、シングルマザーズフォーラムの助成金をいただいて、ひとり親支援をやっている団体さんにメタファシリテーションを使って支援力を上げてもらうということをやらせていただきました。そのときはムラノミライさんのメタファシリテーションと、うちがやっているひとり親支援のノウハウや視点をもってテキストを作りました。

もともと団体としてあんまり大きくできるとも思っていないくて、うちの団体はこれ以上のサイズ感にはならない。しかし、社会課題だったりとか行政の家事支援のありかただったりとか子供支援の在り方に対し、自分たちなりの提案ももっているんで、この小さい規模の中でできる範囲でやればいとも思っていないくて、やはりこれを皆さんに真似してもらいたくて普及させたいという思いがすごくあるんですね。

それをするためには支援者支援は必要と思います。もともとは団体の中の支援者の視点であったり、地域の中の連携というような支援者支援と想っていた

のですが、でもやっぱりもう一步、自分たちが継承していくことも考えたい。

### 最後に「有園博子基金」のご感想をお願いします

これまで中間支援というサポートを色々なところをお願いをしていたのですが、なかなかないものでありがたく思っています。特に基盤整備というところで着目していただいているのは有園基金だけなので、そこに自分たちも意識を集中して基盤整備の時期だなというところで使わせてもらっています。

さすがに団体も何年もやってきて、助成金の意味がようやくわかってきたところです。去年と今回いただいたことで、正真正銘基盤整備で使わせて頂いています。それがすごい力になっています。スタッフがよれよれになってしまうというのがあり、でもよれよれになるというのはどう支援したらいいかわからないので、距離が取れないとかいうことがあったんで

すが、それを教えてもらうことでももちろん距離は取れているし、実際に利用者の方との付き合いの技術として力を付けてきており、間違いなくスタッフの技術と言うと変ですが、技術の向上になっていると思います。

そういったものにお金を使わせて頂けるということが本当にありがたくて、普通の社会一般のNPOだったらできないことを、させていただくことで、自分たちの力をつけて2年、3年後には私たちが継承していける形にできたらなと思っています。

——様々な団体がありますが、支援者支援にも力を入れておられるたねとしずくさんのお話を伺えてよかったです。

たねとしずくさんの HP はコチラ↓

<https://tanetosizuku.com/>

## ◆特定非営利活動法人多文化センター・まんまるあかし [真如苑・ひょうご多文化共生基金]

多文化センターまんまるあかしの理事長の久保美和さんのお話を伺いました。

——まんまるあかしは、外国人・外国にルーツを持つ家族への支援だけではなく、「国籍や文化の違いを壁にせず共に生きる未来」を目指し、多様な文化・習慣を持った人々が相互理解を深める事業や、国籍を問わず全ての人々が活躍できるための事業を行っている団体です。

### まんまるあかしの原点を教えてください

もともと私は国際交流協会の職員だったんです。その時は、市からの委託の枠の中でしか支援活動ができなくて、委託の内容が「成人外国人が生活に困らないようにするための日本語教室」でしたので、日本語がある程度話せる人や子供は対象外でした。一番困っている人たちに手助けできてないなという思

いがありま  
した。

そこで、  
2015年に  
週1回だけ  
そういう人  
たちのため  
だけの教室  
を作っては

どうかと今の副理事長の櫻江に声をかけました。それから週1回の活動を始めました。お母さんたちのクラスを2時から5時まで、子供たちのクラスは5時から8時までと。

2015年4月から1年間やってみて、人が来てくれるようになったら場所も狭くなって、また、他の曜日にはできないのかとか、決まった日だと用事があるて来れないとか、色々なニーズが見えてきました。

それに、場所を借りているだけだと本当の居場所



新事務所開所式で挨拶する久保さん

にはならないから、ちゃんとした居場所を作って、たとえ、子ども達が学習日じゃない時にきても、「本読んで帰り！」と言ってあげられるような場所を作ろうと、NPO 法人にして、場所も借りました。そのきっかけになったのは、当時、日本語教室には参加していないけどイベントに時々来ていた小学校4年生くらいの女の子の存在です。

その子のお母さんが、国際再婚することになりました。お母さんは長い間日本で働いていて、その時に出会った日本の男の人と結婚することになり、家庭を構えるから、子供を呼び寄せることになったのです。彼女は中国出身ですが、日本語も何も全然わからない状態で来日したので、一緒に生活しているお父さんとも全然言葉が通じないし、学校行っても何いつているかわからない中で凄く頑張っています。

私が知り合っちゃべるようになったのは、日本に来て1年半くらいたってからなので、ある程度意思疎通はできていたのですがでもやっぱりなんかすごい辛い、毎日辛いとそれを見ていたら何かしてあげようっていう感じになったのがきっかけです。そこからボランティアで日本語や教科学習を支援する教室を作って、NPO 法人を作って、今に至ります。

——まんまるあかしは、2024年8月に活動拠点を移転されました(写真)。さらに、その際に多国籍カフェを OPEN！楽しいイベントがいっぱいです。

### 新拠点は、どれくらいの準備期間で？

半年で準備しました。一応構想としては前からあったんですが、日本の人たちと外国の人たちが直に常設してふれあえる場所がないということ、働いてくれる彼女たちも頑張りたいと思っているのに頑張る、発揮できる場所がない、あとはうちにきて日本語を勉強している子たちの家族や周りの大人たちが楽しそうに働いていない、みんな結構言葉が通じなくて困っているとか、そんなのばかりを見ていたら、日本でこの先長く住んでいくのに夢も希望もないじゃないですか。

だから、ここで楽しく働いてくれている人たちを見たら自分たちも頑張ろうと思えるかな？そういう場所を作りたいねというのはずっと考えていたんです。

### 今後の展望については如何お考えでしょう？

まず、ここが地域の多文化共生の拠点になれるように育てていく、というのが1番ですね。



あとは外国ルーツの子供たちがたくさん来ているのですが、年齢や目的別にクラスをちゃんと分けてやってあげたいなという思いがあります。進学するにも誰かの支えがないとなかなか難しいので。

カフェのことであれば3年後、4年後を目途にスタッフの誰かが独立してくれればと。

自分のお店を出しますという人を、1年くらいかけてみんなが応援するというようなプロジェクトを作ったりとか、そういうのも楽しいかなと。

あとは明石市というのは横長の市で、市の東の端の方に、私達の拠点があるんですね。教育委員会からの委託で一番西の端の小学校に放課後日本語支援教室をやっているのですが、全域カバーができていないというか、だから助成金をいただいて、今回は真ん中くらいの魚住というところに新しく教室をす

——お忙しいところ、ご自身の想いや団体のあり方を語ってくださった久保さん。活動の原動力は、久保さんはじめ関わっておられるスタッフの皆さんの、「困っておられる方に対するやさしさ」であるように感じました。

まんまるあかしの HP はコチラ↓

<https://manmaru-akashi.com/>

こんな取り組みもしています

## ■ひょうごコミュニティ財団の動き

ひょうごコミュニティ財団は資金助成以外にも、様々な形で市民活動を応援する取り組みをしています。昨年下半年の活動の中から中間支援組織としての非資金的支援活動とファンドレイズ活動の一例をご紹介します。

### ◆孤独・孤立対策のための中間支援3.0「ひょうごモデル」推進事業

本事業は、令和6年度「孤独・孤立対策担い手育成支援事業」(内閣府交付金事業)を活用し、兵庫県内外の9つの中間支援組織がコンソーシアムを組み実施した事業で、当財団は、そのコンソーシアムの代表団体を担わせて頂きました。孤独・孤立対策推進のため地域の市民活動団体(NPO)等を支援する中間支援の活動を促進・強化しようとしたもので、具体的には、コンソーシアム組成9団体で、兵庫県を活動エリアとして「伴走支援」「市民参加を促進するセミナー」「空白地域における中間支援活動インキュベート」の3事業を協働で取り組みました。約8カ月間の活動は、2025年3月31日をもって終了しました。

#### 3月12日 最終報告会を神戸にて開催！



約8カ月、企画段階を含めると10カ月にわたるコンソーシアムでの活動は、この3月で

終了となる事を受け、3月12日に神戸市立婦人会館の大会議室(オンライン併用)にて「活動報告会」と銘打って報告会を実施しました。それには、会場参加者30名と全国からオンライン参加者47名が集い開催されました。(後日のアーカイブ視聴にも別途46名の方よりお申込みを頂きました)



当日は、二部形式にて行われ、第一部は、全体と各事業の活動報告が行われました。報告後、活発な質疑となり、各事業に関する問題に加え、何をもち、「中間支援 3.0」と捉えるかといった議論も展

開されました。第二部は、会場・オンラインそれぞれで幾つかの分科会に分かれ討議がなされました。事前に3事業に関わる課題に加え「中間支援における人材育成」等いくつかのテーマを示し、参加者が希望するテーマに参加する形で討議が進められました。グループ討議終了後には、幾つかの分科会より討議の状況の報告やその場で出た問題提議などが共有され、主催者もそれに応じる形でより有意義な議論がなされました。

#### 本事業の報告書を発刊しました！

主催：財団、協賛：公益財団法人  
 協賛団体：「ひょうごモデル」推進コンソーシアム、関係団体

孤独・孤立対策のための  
 中間支援3.0  
 「ひょうごモデル」推進事業  
 報告書

2024年3月  
 中間支援3.0「ひょうごモデル」推進コンソーシアム

前述の報告会終了後、詳細報告として、本事業の活動について1冊の報告書を纏めました。全94ページに及ぶ報告となっていますので、是非、ご閲覧のほどお願いします。

以下のURLで報告書を公開しています。

<https://hyogo.communityfund.jp/shiminkatudo shien/>

## ◆第5回遺贈セミナーを開催！



1月28日にオンラインにて遺贈セミナーを5年ぶりに開催しました。

今回の遺贈セミナーは、専門家向けで開催したもので、県内31名(アーカイブ視聴7名を含む)の弁護士・司法書士といった法律専門の方や会計士・税理士といった会計・税務専門の方にご参集頂きました。

当日は、そうした相続・遺贈の相談に乗られる方にご相談に乗る際に必要な法務・税務の基礎知識を、当財団の監事である重田和寿氏(弁護士)と宮崎洋彰氏(公認会計士・税理士)のお二人にお話頂くと共に、当財団の代表理事である実吉威より遺贈の珍しい例や最近の遺贈の傾向等をご紹介をさせて頂き、遺言者の思いを活かすさまざまな方法についてお話をさせて頂きました。

「お一人さま」の増加や社会貢献意識の高まりを背景に「遺贈」について検討される方が増えて居ります。当財団としては、そうした方々の尊き思いを地域課題に取り組む市民活動(NPO)に届けるべく、今後も取り組んで参りたいと思っております。

### 【編集後記】

前回7号が発刊されて早1年と数カ月。「はて？」これって Annual Report でしたっけ？いえいえ、そんなことはありません。不定期発行となっていた過去の悪しき習わしのせい、はたまた、単なる怠惰のなせる技なのか？いずれにせよ、大いに反省すべき事と、認識しております。今年よりは、年2回、春と秋に発刊させて頂きたいと思っております。ここで改めて「宣言」させて頂きます。言っちゃった！

さて、当財団では一昨年の10周年に際して、リブランディングを実施し、あらたなミッションとして、「あなたの『役に立ちたい』をカタチにし、市民とともに挑戦する」を制定しました。また、財団の活動の大きな柱は、助成事業と非資金的支援、それと寄付者支援となりますが、今回、助成事業の報告と共に、クローズアップさせて頂いたのが「共感寄付」。これはこれらの事業の柱の中間的な位置づけであることに加え、まさに当財団のミッションを形にしたような取組みとなります。日本に「寄付文化」を根付かせたい！との思いを込めて、推進して参ります。どうかご支援のほど、宜しくお願ひしたいと存じます！(T.Y)

### 賛助会員のご入会・ご継続のお願い

当財団では、ともに地域コミュニティをより良くしていこうという皆さまのご入会、会員のご継続をお願い致します。

#### 賛助会員

個人 年会費 5,000 円/ 口  
 団体 年会費 20,000 円/ 口

#### 《入会の特典》

▽当財団からの情報提供   ▽当財団開催のイベントのご招待  
 ▽各種セミナー、交流会等への優先のご案内、参加費割引  
 ▽社会貢献、CSR 活動へのコンサルティング、サポート  
 ※お問い合わせはお気軽に事務局へ

### 公益財団法人ひょうごコミュニティ財団

〒650-0022  
 神戸市中央区元町通6-7-9 秋毎ビル3F  
 ☎ 078-380-3400 FAX 078-367-3337  
 ✉ hyogo@communityfund.jp

発行人 西河紀男、実吉威 編集人 安井毅

口座 ゆうちょ銀行 00290-4-129316  
 みなと銀行 神戸駅前支店(普通)663926

※当財団へのご寄付は、公益法人へのご寄付として寄付控除の対象となります。